

軽米町説明資料について

令和2年12月25日
山本軽米町長 提出資料

◇ バイオマス資源等を活用した脱炭素社会推進構想概要 ◇

岩手県軽米町

背景

本町は、岩手県の最北端に位置する人口約9千人、面積246K㎡の小さな中山間地域の町であり、年々人口の減少が続いている。その主な要因として町内に雇用の場が少ないことから若者等を中心に町外流出が続いている。このことから、農林畜産業を基幹産業とする本町において地域に賦存する再生可能な資源の効果的な利活用により新たな産業をおこすなど小さな町が夢ある未来を目指すもの。

趣旨

本町の基幹産業である農林業から発生する副産物をバイオマス資源として利用し、再生可能エネルギーによる資源循環、脱炭素社会の推進、地球温暖化防止対策への貢献できる事業を目指す。併せて地域内に新たな雇用の場の創出、町民所得の向上、農林業の更なる振興等により町の活性化を図るもの。

展開

本町に賦存するバイオマス資源として、家庭から排出される生ごみ等や畜産から発生する副産物（鶏ふんなど）、林業からの間伐材等、未利用資源をバイオマス資源として熱・二酸化炭素・電気・ガス等として利活用することにより地域に新たな産業や雇用の場が創出される。また再生可能エネルギー推進の町として、町内外の先導モデル的な役割が期待される。



小さな町の大きな活力と夢ある町の創造

鶏糞を活用したバイオマス発電1か所と、メガソーラー5か所で、令和4年度までに213MWの発電が可能になる。

← 一般家庭約7万5千世帯（軽米町約3,700世帯の約20倍）の消費電力量に相当

「北岩手循環共生圏」のこれまでの取組

2019(平成31年)	2月6日	9市町村と横浜市が「再生可能エネルギーに関する連携協定」締結
2019(令和元年)	7月30日～8月2日	北岩手展(横浜市:横浜市役所本庁舎)
	9月21日～23日	北岩手フェア(横浜市:元町ナチュラルエッセイ)
	12月2日	北岩手9市町村が「2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ宣言」
2020(令和2年)	1月28日	くずまきワインパーティー(横浜市:クルーズクルーズYOKOHAMA)
	1月29日	普代村が「横浜市ブルーカーボンオフセット」に参加(3月取引開始)
	2月18日	北岩手循環共生圏結成式(久慈市:久慈グランドホテル) 北岩手循環共生圏としても「2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ宣言」
	3月28日	北岩手の再生可能エネルギー発電の電気を、御所野縄文電力㈱から、 横浜市の事業所・家庭に供給開始(横浜市への供給)
	4月1日	県企業局の小水力発電所で発電した電気を、久慈地域エネルギー㈱から、 久慈市のアンバーホールに供給開始(地産地消)
	11月20日	北岩手循環共生圏講演会(久慈市:久慈グランドホテル)

※ 各種会議を開催(「横浜市・東北12市町村再エネ連携連絡会」「北岩手循環共生圏連絡会議」
民間事業者による「北岩手の未来を語るとんがり者(コンペイトウ)会議」など)

★「再生可能エネルギーに関する連携協定」(2019年2月6日)

- 横浜市と東北の12市町村(北岩手の9市町村、青森県横浜町、福島県会津若松市、郡山市)が個別に締結
- 協定内容は、東北12市町村で発電した再生可能エネルギーの電気を横浜市に供給、併せて、様々な横浜市との交流・連携を進めることなど

令和元年12月2日
2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ宣言共同発表



★「2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ宣言」(2019年12月2日)

- 近年の異常気象などを踏まえ、地球温暖化対策と地域力向上のために、北岩手の9市町村が共同で表明
- 全国の自治体で13番目の表明(2020.11.2現在、168の自治体が表明)
- 政府も、2020年10月26日、菅首相の所信表明演説で表明

平成31年2月6日
再生可能エネルギーに関する連携協定



いわての帽子

北岩手は、岩手の先っちょ。

自然がいっぱい。
美味しいがいっぱい。

みんなで力を合わせれば
エネルギーだっていっぱい。

北岩手は、岩手の先っちょ。
人で言ったらあたみの部分。
緑の帽子をちょこんとかぶって
君の街にも遊びに行くよ。



【お問合せ先】

久慈市企業立地港湾課	0194-52-2369
二戸市政策推進課	0195-23-3111
葛巻町政策秘書課	0195-66-2111
普代村政策推進室	0194-35-2111
軽米町再生可能エネルギー推進室	0195-46-2111
野田村未来づくり推進課	0194-78-2963
九戸村総務企画課	0195-42-2111
洋野町企画課	0194-65-5912
一戸町まちづくり課	0195-33-2111
特定非営利活動法人仕事人倶楽部	03-6809-1370

北岩手循環共生圏i9

Version 2

今、日本全国の多くの地域が、少子化・高齢化・過疎化・産業の空洞化・人口減少さらには地球温暖化といった難しい課題に向き合い、様々な取り組みを進めています。

このような中で、岩手県北地域(北岩手)の9市町村(久慈市、二戸市、葛巻町、普代村、軽米町、野田村、九戸村、洋野町、一戸町)は、その解決手段の一つとして、脱炭素社会と持続可能な地域社会の実現をめざす「北岩手循環共生圏」の取り組みを進めることにしました。

《北岩手循環共生圏とは》

- ★ 北岩手の各市町村は、単独では、人口や産業等の規模は決して大きくはありませんが、まとまることによって、豊かな森・里・川・海が育んだたくさんの地域資源がそろい、また、風力、太陽光など多様な再生可能エネルギーのポテンシャルが高い地域へと大きく変貌します。
- ☆ 「北岩手循環共生圏」とは、9市町村が行政の枠を超え、ゆるやかな連携を図りながら、一つの共生圏としてまとまって、豊かな地域資源(農林水産物や再生可能エネルギー、観光等)などの強みを活かしつつ、行政、民間、地域住民が一緒になって、地域の活力を最大限に発揮していこうとするものです。

- ★ 令和2年2月18日に「北岩手循環共生圏結成式」を行い、本格的な活動を始めたところですが、その1年前の平成31年2月6日、北岩手の9市町村は、それぞれが横浜市と「再生可能エネルギーに関する連携協定」を締結しました。

横浜市という大都市、大消費地と「再生可能エネルギー」を縁につながることにより、北岩手の豊かな自然や、農林水産物、歴史・文化・観光といった地域資源と、横浜市からの人材・情報・技術・資金といった経済的資源の交流・循環の可能性が大きく広がりました。

- ☆ このような「横浜市との連携」を大きな軸にして、各地域が有する地域資源を持ち寄り、補完しあい、さらに価値を高めながら、食とエネルギーの一大産地をめざして、様々な事業により、経済の活性化や地域振興に取り組んでいきます。

- ★ 「北岩手循環共生圏」は、9市町村に限定するものではありません。近隣市町村等が参加を希望する場合は、共に行動するパートナーとして「北岩手循環共生圏」の輪を広げていきます。



※「北岩手循環共生圏」は、2018年4月に閣議決定した第五次環境計画によって国が提唱する「地域循環共生圏」の考え方に基づいています



地域循環共生圏

○各地域がその特性を生かした強みを発揮
→地域資源を活かし、**自立・分散型の社会**を形成
→地域の特性に応じて補完し、**支え合う**



動き始めた「北岩手循環共生圏」の取組

北岩手地域では自治体を超えたチームも生まれ、様々なプロジェクトが動き出しています。

山ぶどうの活用

横浜市でのくすまきワインパーティーは、多くの横浜市民に山ぶどうワインのおいしさを知っていただく機会となりました。葛巻町、野田村のワイナリーが中心となり、山ぶどうワイン協会設立に向けた活動が始まっています。



北岩手の観光

北岩手の四季折々の山の幸、海の幸、三陸鉄道や自然（三陸ジオパーク、みちのく潮風トレイル等）、芸能、文化、歴史を体験するためのツアー造成を企画中です。北岩手の関係人口となる方々を創り出すためのツアーが令和3年から動き始めます。



雑穀（シリアル）の活用

軽米町を中心とした二戸地域の雑穀は、スーパーフードとして注目度を増していましたが、内閣総理大臣夫妻主催の天皇陛下即位の礼晩餐会の食材に選ばれてから、さらに引き合いが強くなっています。首都圏の高級ホテルでも使われ、今や世界ブランドとなりました。



久慈市
・久慈港沖での洋上風力発電の可能性調査
・廃棄物由来のエタノール製造実証プラント建設
・久慈地域エネルギー(株)が滝発電所の電力販売開始(2020年4月)

二戸市
・民間風力発電事業者、3000kW級の風力発電を近隣市町村設置分含めて70基建設予定(R7~9年稼働予定)
・今後県企業局の風車を1基に集約予定であり、既存風車の撤去および新設工事が着工済み

再生可能エネルギー

それぞれの市町村で再生可能エネルギーを作り出す取り組みを加速しています。2020年の取り組みをご紹介します。

葛巻町
・「くすまき第二風力発電所」が令和2年12月運転予定(定格出力:44,600kW)

普代村
・横浜市とブルーカーボンの排出権取引を開始(2020年3月)

軽米町
・くろしお風力発電(株)(日立)が、12月に発電開始予定(風車1.99MW1基)

洋野町
・横浜ブルーカーボン・オフセットに係るクレジット化検討
・町内の太陽光発電事業所から横浜市内企業への再エネ由来電力供給検討

葛巻町・九戸村・一戸町
・折爪岳南(2期地区)風力発電事業が3町村境にて工事開始(最大:125.8MW)

食彩王国・悠久のまほろば・自然の恵み 北岩手 —豊かな森里川海で北岩手循環共生圏の形成—



食材/自然「森・里・川・海」/知恵 再生可能エネルギー



森の地域資源

全面積の80%を占める森林、日本一の生産量を誇る木炭、日本一の白樺美林、豊富な山菜、キノコ類(松茸、シイタケ等)、クルミや栃の実、日本唯一の琥珀の生産地、白樺樹液、鍾乳洞、歴史のあるベコの道、日本最大の国産漆の生産、太陽光や陸上風力発電施設

里の地域資源

豚・鶏・牛の畜産、日本一の生産量を誇る山ぶどうと山ぶどうワイン、豊富なフルーツ生産(りんご、サクランボ、ホオズキ、ブルーベリー等)、世界に注目されるシリアル(雑穀)、御所野縄文遺跡等の縄文遺跡、伝統芸能の神楽や剣舞、みちのく潮風トレイル、畜産バイオマス発電、三陸鉄道、教育旅行や体験メニュー

川の地域資源

渓流環境、清涼な水質の水、渓流魚(アユ・イワナ・ヤマメ等)、豊富な湧水

海の地域資源

豊かな北三陸の恵み(ウニ・アワビ・ホヤ等)、外洋養殖のホタテ貝、三陸復興国立公園、雄壮なリアス式海岸、海の観光体験メニュー(ウニ剥き、定置網体験、サッパ船体験)、サーフィンのメッカ、津波被害からの復興、海洋CO2固定の海藻類(昆布、ワカメ等)、伝統の直煮法の高塩

森林・白樺の活用

持続可能な森林づくりのため、植え、育て、森林資源を製品にする活動が必要です。日本一の白樺美林を観光資源にする活動、また樹液の商品化、倒木の再利用も検討中です。木材チップは木質バイオマスとして電力になり、横浜市にも届いていて、植林を共にやりたいという方々も出てきています。



北岩手の畜産

菜彩鶏、あべ鶏、山形短角牛、葛巻高原牛などを活用した取組みが盛んになっています。白樺チップで燻製を試みた新商品の開発等、森林プロジェクトとも連携しながら、ブランド価値を向上させています。



三陸海の活用

海洋で昆布などにより蓄積される二酸化炭素。「ブルーカーボンの排出権取引」が横浜市と普代村でスタートしました。磯焼け対策による昆布やウニ、アワビの増産と合わせて、今後もCO2の吸収も図る取組みを拡大させていきます。

